放射線科

1．【一般目標】

放射線学的検査法や放射線治療の適切な選択や評価ができるようになるために、CT・MRI・核医学検査などの撮影法と読影に必要な基本的知識を身につけ、IVRの基本的な考え方や方法を修得する。検査を安全に行うための留意事項も習得する。

2．【行動目標】

1	画像診断全般に関する基礎的知識を修得する
2	放射線科病棟患者を担当し適切な診療プロセスを修得実践する
3	放射線治療の適応や合併症、がんの標準的治療法を修得する
4	造影CTの適応の有無の判断力、造影剤投与ルート確保と造影剤注入などを習得する
5	被曝や造影剤による副作用のリスクといった各検査の安全性・危険性について理解する
6	超音波・血管造影・消化管造影などの基本的な手技を経験する
7	コメディカルスタッフと協力してチーム医療を実現できる

3．【方略】

1	診断レポートを指導医とともに作成し、レポートのフィードバックを行う
2	放射線科入院患者の担当医として主治医である指導医とともに診療にあたる
3	放射線科外来にて放射線治療中・後症例の診察をする
4	血管造影やIVRがある場合は助手として参加し基本的な手技を修得する
5	ティーチングファイルなどの症例を多く閲覧する
6	カンファレンス・回診に参加し積極的に発表・討論を行う
7	研究会・学会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う

４．【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
担当した入院患者の疾患と患者数	自己・指導医	患者退院医時又は研修終了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオ
診療態度	自己・指導医・コメディカル	研修中旬・研修終了時	フィードバックシート
関連手技	自己・指導医	毎週	ポートフォリオによるチェック
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・コメディカル	毎週	口頭でのフィードバック
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5．【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	読影	読影	読影 放射線治療	読影	読影
午後	読影 病棟カンファレンス 月1回キャンサーボード	読影	読影 放射線治療	読影 回診 医局会	読影

6．研修医の事前準備

放射線科教科書の予習

7．【研修指導体制】

研修責任者： 上谷　雅孝
指　導　医： 指導医一覧表参照
コメディカル：病棟師長、副師長

8．【緊急連絡先】

放射線科業務マニュアル参照

国際ヒバクシャ医療センター

１．【一般目標】

患者にとって満足できる診療を提供するために、医師として全人的に患者を診療する姿勢を身につけ、診療に必要な知識、技術を修得するとともに、包括的な一般内科診療を実践できる

２．【行動目標】

1	医師として必要な人間性を身につけ、患者および患者家族との信頼関係を築き、適切に対応する能力を修得する
2	一般内科診療、総合診療に関する基本的知識を身につける
3	緊急被ばく医療の知識を身につけ、実践できる能力を身につける
4	原爆被爆者の健康管理を実践できる
5	コメディカルスタッフと協力してチーム医療を実践できる

３．【方略】

1	国際ヒバクシャ医療センター入院患者の担当医として、主治医である指導医とともに診療にあたる
2	問診、診察、検査結果の解釈、鑑別診断、担当患者の診療計画立案、治療法について習得する
3	指導医とともに新患・旧患外来、他科からのコンサルテーションに対応する
4	回診に参加し、発表、討論を行う
5	学会や研究会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う

4．【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
担当した入院患者の疾患と患者数	指導医 コメディカル	患者退院医時又は研修終了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオによる
診療態度	自己・指導医・コメディカル	研修中旬 研修修了時	フィードバックシート
関連手技	自己・指導医	毎週	ポートフォリオによるチェック
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・コメディカル	毎週	口頭でのフィードバック
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5．【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟	抄読会 外来・病棟
午後	病棟	カンファレンス、回診	病棟	カンファレンス、回診	病棟

6．研修医の事前準備

一般的な内科教科書をおさらいすること

7．【研修指導体制】

研修責任者： 宇佐俊郎
指　導　医： 指導医一覧表参照
コメディカル：病棟師長、副師長

8．【緊急連絡先】

国際１階病棟業務マニュアル参照

検査部

1．【一般目標】

プライマリケア，総合医，救急など初期診療時の診断に必要な実践的な知識と技術を修得するために，検査医・検査技師へのコンサルテーションが必要な項目を適切に判断して診療へ応用する力を養う。また，臨床検査データを様々な角度から検証することで，広い視野を伴った診療を実践する力とともに医療人としての探求心を養う。

2．【行動目標】

1	チーム医療内での医師の位置づけを認識し，実践できる
2	正しい検査結果の解釈力を身につける
3	初期検査結果の解釈を元に，病態診断確定に必要な検査立案を実践できる
4	診断プロセスにおける臨床検査の応用と限界を理解する
5	基本的臨床検査手技を実践・判読する能力を取得する
6	生理検査を適切に実践し，解釈する能力を取得する
7	感染症診断率向上のために，必要な検査法の選択，適切な検体採取・輸送が実践できる
8	検査データの解析から情報発信までのプロセスを実践することで，客観的な事実や症例特有の病態への理解を深める

3．【方略】

1	検査各部門カンファランスに参加し，医師の視点と臨床検査技師の視点の双方から討論を行う
2	年齢・性別・検査情報のみを利用した病態読解（R-CPC）をおこなう
3	グラム染色・尿沈査・血液塗抹の各標本を作製し，医師・専門技師の指導のもと判読するとともに，オリジナルノートを作成する
4	特殊検査（フローサイト，免疫電気泳動，遺伝子検査など）に触れ，指導医と共に解釈する
5	心電図，超音波（心臓・腹部）を行う
6	分子診断(ヒト，微生物)のカンファランスに参加し，討論を行う
7	検査データを解析，まとめを行い，研究発表・症例報告・論文作成を行う

4．【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
担当した入院患者の疾患と患者数	該当せず	該当せず	該当せず
診療態度	自己・指導医	研修中旬・修了時	フィードバックシート
関連手技	自己・指導医・検査技師	随時	検査技師による客観的達成度評価と指導医による確認
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・検査技師	随時	口頭でのフィードバック
学会発表・論文発表	自己・指導医・検査技師	随時	学会発表・論文発表

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5．【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	miniR-CPC データ解析 遺伝子カンファ	miniR-CPC データ解析	miniR-CPC データ解析	miniR-CPC データ解析	miniR-CPC データ解析
午後	微生物検査	生理検査 検査部カンファ	血清検査 生化学カンファ	血液検査 血液カンファ	一般検査 miniR-CPC検証会

6．研修医の事前準備

これまで自らの視点から興味深い症例があれば資料・データなどをまとめておくこと
学生時代で使用した教科書が使える状態としておくこと

7．【研修指導体制】

研修責任者： 栁原克紀

指　導　医： 指導医一覧表参照

コメディカル：技師長、副技師長、主任技師他、全臨床検査技師

8．【緊急連絡先】

検査部業務マニュアル参照

病理部

1．【一般目標】

臨床病理の業務を理解するために、病理診断に必要な知識、技術を修得するとともに、病理診断、病理解剖をとおして医療に貢献する。

2．【行動目標】

1	生検組織の診断に必要な知識を修得する
2	手術検体の切り出しに必要な技術を修得する
3	手術検体の診断に必要な知識を修得する
4	病理解剖に必要な技術を修得する
5	病理解剖診断に必要な知識を修得する
6	臨床医と円滑にコミュニケーションをとり、チーム医療を実践する

3．【方略】

1	生検組織を指導医とともにディスカッション顕微鏡で供覧し診断を行う
2	手術検体を指導医とともに切り出しを行う
3	手術組織を指導医とともにディスカッション顕微鏡で供覧し診断を行う
4	病理解剖を指導医とともに行いう
5	カンファレンスに参加し、討議を行う

４．【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
担当した入院患者の疾患と患者数	指導医 コメディカル	患者退院医時又は研修終了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオによる
診療態度	自己・指導医	研修終了時	フィードバックシート
関連手技	自己・指導医	研修終了時	フィードバックシート
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医	随時	口頭でのフィードバック
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	口頭でのフィードバック

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5．【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	呼吸器病理サインアウトセッション	抄読会 切り出し	呼吸器病理サインアウトセッション	呼吸器病理サインアウトセッション 術材診断	呼吸器病理サインアウトセッション 術材診断
午後	生検診断 サインアウトセッション	生検診断 サインアウトセッション	生検診断 サインアウトセッション	術材診断 生検診断 サインアウトセッション	術材診断 生検診断 サインアウトセッション

6．研修医の事前準備

各臓器の基本的な組織像および、代表的な疾患の病理像を復習すること。

7．【研修指導体制】

研修責任者： 福岡順也
指　導　医： 指導医一覧表参照
コメディカル：佐藤典子が指導に当たる

8．【緊急連絡先】

病理部マニュアル第4版参照